

MySQL 5.1.50 リリースノート（日本語翻訳）

InnoDB に関する注意事項:

- InnoDB Plugin はバージョン 1.0.11 にアップグレードされている。本バージョンは、General Availability (GA) の品質であるとみなされている。

今回のリリースでは、InnoDB Plugin は、RHEL3、RHEL4、SuSE 9 (x86、x86_64、ia64)、Linux RPM 汎用パッケージ、および icc コンパイラで生成されたビルドを除き、ソースおよびバイナリディストリビューションに含まれている。また、FreeBSD 6 と HP-UX、および ia64 全般の Linux では動作しない。

修正されたバグ:

- **重要な変更: レプリケーション:** ステートメントベースのレプリケーションの場合、[LOAD DATA INFILE](#) ステートメントはアンセーフとみなされる。ステートメントベースのログモードの使用時には、ステートメントは警告を生成するようになっている。混合形式のログの使用時には、ステートメントは行ベースの形式を使用して作成される ([Bug#34283](#))。
- **パーティショニング:** 行ベースのレプリケーションを使用した場合、パーティションドテーブルに影響する [UPDATE](#) および INSERT ステートメントは正しく動作しなかった ([Bug#52517](#))。
- **パーティショニング:** 多数のパーティションがあるテーブルでは、[INSERT ON DUPLICATE KEY UPDATE](#) ステートメントが正しく動作しなかった。これは、特定のインデックスから行を読み取るためのハンドラ関数がパーティショニングハンドラで最適化されなかったことが原因だった ([Bug#52455](#))。
- `--innodb-use-system-malloc=0` を使用してサーバを起動すると、サーバがクラッシュまたはシャットダウンする可能性があった ([Bug#55581](#))。
- GROUP BY 演算子は、[max_sort_length](#) を一貫性なく使用していた ([Bug#55188](#))。
- Sun Studio を使用した場合、Solaris 8 x86 での MySQL のビルドは、`gcc` インラインアセンブラコードが原因で失敗した ([Bug#55061](#))。
- デバッグビルドでは、[UPDATE](#) ステートメントの WHERE 条件の処理中にエラーの検出に失敗した後、サーバが OK パケットをクライアントに送信しようとする、と、表明が発生する可能性があった ([Bug#54734](#))。

- アクティブなトランザクションがあるテーブルの名前を変更すると、データベースサーバがクラッシュする可能性があった（この問題は、デバッグ用にビルドされた場合にのみデータベースサーバに影響した）（[Bug#54453](#)）。
- オフページストレージを使用する BLOB または他の大きなカラムを、ROW_FORMAT=REDUNDANT または ROW_FORMAT=COMPACT で作成された InnoDB テーブルに挿入しているときにサーバがクラッシュした場合、そのサーバは起動のリカバリ段階でクラッシュする可能性があった（[Bug#54408](#)）。
- ROW_FORMAT=COMPRESSED または ROW_FORMAT=DYNAMIC で作成された InnoDB テーブルの場合、オフページストレージを使用する BLOB または他の大きなカラムが同時に挿入されると、READ UNCOMMITTED アイソレーションレベルを使用しているクエリはサーバの停止を引き起こして表明エラーを発生する可能性があった（[Bug#54358](#)）。
- クライアントは、[mysql_stmt_send_long_data\(\)](#) C API 関数（または COM_STMT_SEND_LONG_DATA コマンド）を使用して、[TEXT](#) または [BLOB](#) タイプ以外のプリペアドステートメントパラメータにデータをチャンクで供給する可能性があった。他のデータタイプは長いデータに対して無効であるため、これによってクラッシュが発生した（[Bug#54041](#)）。
- [mysql_secure_installation](#) は、ローカルアカウントを正しく識別しなかったため、非ローカルのルートアカウントを誤って削除する可能性があった（[Bug#54004](#)）。
- InnoDB テーブルに対する ALTER TABLE...ADD PRIMARY KEY、またはテーブル全体のコピーを伴う他の操作の実行後にサーバがクラッシュして再起動された場合、トランザクションは、リカバリ時に後退復帰されるのではなく不正にコミットされる可能性があった（[Bug#53756](#)）。
- [SHOW STATUS](#) における移植性の問題により、一部のプラットフォームでは不正な結果になる可能性があった（[Bug#53493](#)）。
- MySQL のビルドでは、多数の警告が生成された（[Bug#53445](#)）。
- [lower_case_table_names](#) がゼロ以外の値に設定されている場合、INFORMATION_SCHEMA テーブルでテーブル名またはデータベース名を検索すると、不正な結果になる可能性があった（[Bug#53095](#)）。
- MySQL の ABI チェックは、[gcc](#) 4.5 でコンパイルに失敗した（[Bug#52514](#)）。
- [mysql_secure_installation](#) は、[mysql](#) クライアントを特定できないことがあった（[Bug#52274](#)）。
- [LOAD DATA INFILE](#) で ucs2 データファイルを読み取る際には、3つの問題が生じる可能性があった。1) ucs2 データとしてファイルが正しく解析されず、その結果、解析された文字列が間違った長さになった。これは、ファイルから読み取るときに無効な後続バイト（不完全なマルチバイト文字）を切り捨てることで修正されてい

る。2) 正しい ucs2 ファイルからの読み取りでは、改行文字が認識されなかった。これは、マルチバイト文字の一部としてバイトを読み取る前に、そのバイトが改行（または他の特殊文字）かどうかを先にチェックすることで修正されている。3) ユーザ変数を使用してカラムデータを保持すると、ユーザ変数の文字セットが誤ってデータベース文字セットに設定された。これは、[LOAD DATA INFILE](#) ステートメントで文字セットが指定されている場合はその文字セットに設定するという方法で修正されている ([Bug#51876](#))。

- 存在しないデータベースに一致する行を INFORMATION_SCHEMA テーブルで検索すると、空のクエリ結果ではなくエラーが生成された ([Bug#49542](#))。
- FreeBSD では、基礎となるテーブルが空の場合、MERGE テーブルのメモリマッピングが失敗する可能性があった ([Bug#47139](#))。
- アジアの文字セットの場合、my_like_range_xxx()関数は不正に形成された最大文字列を返したため、ストレージエンジンで問題が発生した ([Bug#45012](#))。
- 閉じたソケットへの書き込み失敗後に、デバッグ表明が発生する可能性があった ([Bug#42496](#))。
- 非常に長いキーの場合、yaSSL 内で表明違反が発生した ([Bug#29784](#))。

[Bug#53463](#) も参照。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。